

国保財政や福祉行政、商業



朝夕は大変混雑する駅前交差点



安全対策を考慮した
全体的な改良が望まれている横芝駅前広場

人家も相当建ち並んでおり、部分的な改良さえも難しいのが実態である。したがって、当面は交通信号機の操作によって歩行者の安全確保と交通渋滞の緩和を図られるように、成東警察署を通じてながら公安委員会と協議してまいりたい。②駅前広場の交通安全対策については、以前から指摘があり、町としても広場内に歩道を設けることや、点字ブロックの設置などについて、土地所有者であるJRと再三にわたって協議を行なってきたところである。直線的に点字ブロックを設置した場合には、現在、JR敷地を使用している

構内タクシー及び千葉交通バスの運行にも支障をきたし、かえって危険を伴ってしまう。また、危険を避けるために、東側を回って点字ブロックを設置するとかなり遠まわりになってしまうなど色々な問題が出てきており、JR側からは、駅前広場全体の交通体系を考慮に入れたレイアウトが必要であるとの指導を受けている。また、この他にも現在設置されているトイレ等が不衛生であるため、早く改築してほしいなどの要望も出されていることから、今後は、これらを含めた駅前広場全体の開発計画を、できるだけ早い段階で検討し整備してまいりたいと考えている。

商業振興対策

問 全国的な経済不況の中、当町でも、代々続いてきた店舗が閉鎖される事態が発生するなど、極めて厳しい状態が続いている。地元商店街の活性化と景気浮揚対策として、町内の各商店で共通に利用できる自治体商品券の発行等は考えていないのか。

答 平成二年頃からのバブル経済の崩壊以降、日本経済は暗いトンネルをなかなか脱出できないままに、現在に至っており、国においては、これまで何度となく公共事業の前倒しや特別減

税の実施など、景気回復に向けた対策を講じてきたところである。先月中旬には、総事業費で二十四兆円規模の緊急経済対策を決め、その中の景気対策の一環として、地域振興券、いわゆる商品券の交付を行なうことを決定した。この地域振興券は、町が事業主体となり、十五歳以下の子どもを持つ家庭や高齢福祉年金の受給者等に交付することになっているが、細部にわたってはまだ検討段階であり、町でも現在、内部調整を図っているところである。この地域振興券が、商店街の活性化や景気浮揚対策にどれぐらいの効果をもたらすかは、まだ何とも言えないが、しばらくの間様子を見守りたいと思っている。また、いくつかの自治体では、地元商店街の活性化や地元商店での消費拡大を狙った使用期限付きの商品券を発行して話題となっているが、当町でも、平成九年度の高齢者祝い品等で、商品券の配布について色々と内部検討した経緯がある。この時は、手続き等の問題で取り止めになったが、来年度からは、この高齢者祝い品等をはじめ、町が実施する福祉関係事業の中で取り入れられるものがあれば、できるだけ商品券等を利用するよう検討し、町内商店街の活性化を図ってまいりたいと考えている。